

第36回福岡ブロック会員大会



サイレンと怒号の飛び交う中、近くまで走って向かうと、すでに立ち入り禁止のテープが張ってあり、テープをくぐり、警察と消防隊員の制止を振り切って、商店街まで入ると、目の前に飛び込んできた風景は、本町商店街が火に包まれ、我が社の店舗も2店舗とも猛火の中……。その光景を目の当たりにしたとき、すべての音が自分の耳から消えました……。

煙が立ち込めているという一報からわずか20分、ブロック会員大会まであと20日に迫った4月21日PM3:30分の出来事です。

それから、鳴り止まない電話と、いろいろな方の激励をいただきましたが、その日の出来事は、あまり覚えていません……。

ただ、ひとつだけはっきり覚えているのは、その日の夜10時頃事務局に呼ばれ、いろいろな方から、「JC運動は大会当日まで止める。会社の復興に全力を注げ」との言葉です。ありがたいお言葉なのですが、胸中は複雑でした。悔しさと寂しさとやるせなさ……。この2年間の全ての努力はなんだったのだろうか？

ありがたいお言葉ですし、当然の事なのでしょうが、「死んでもいいから、実行委員長をやり返す」とまで言って、妻に説得したその想いは、その時間になってもまだ燃えている我が店舗を見ながらも、変わることはありませんでした。

それから1週間、会社の復興に全力を尽くしました。色々な方々のご支援をいただき、被災から5日目には、仮店舗を出しました。社員が一丸となって、頑張ってくれました。

飯塚JCのメンバーは、大会前のもっとも忙しい時期でありながら、募金活動まで行っていただきました。あらゆる団体・企業・個人から、お見舞いや義援金をいただきました。福岡ブロックも義援金口座をすぐに立ち上げ、各21LOMが、色々な募金活動をされていました。

何とか大会10日前には、JC運動に復帰出来、ブロック大会の事が気がかりで、しょうがなかったのですが、私の想像を遥かに超えて、各部会が、大会前の準備が進んでいました。頼もしい限りであり、自分の目指した姿がそこにありました。

大会当日は、素晴らしい五月晴れ。メンバーの一生懸命な姿はもとより、参加していただいた全ての方々笑顔、そして色々な方々からのお褒めのお言葉は、一生忘れることが出来ません。

今回の福岡ブロック会員大会は、飯塚という枠を超え、福岡ブロック会員全員で創り上げた大会でした。懇親会終了後は、ご家族まで片付けに手伝ってくれていました。

その後の打ち上げの時の、飯塚JCメンバーの全員の笑顔は、最高でした。目に焼きついて離れません。私が目指していた大会を遥かに超えたものでした。桑野・畑中・山室・下川、4人の部会長は最高です。とても自分だったら出来ていません。実行委員長代理の福永さんは、自分の全てのがまを聞いて、部会長を説得し、役割に徹していただきました。理事長・専務は、私を最後まで信じてくれました。そして全メンバーが、本当に一つになっていました。

No pain No gain～失うもの無くして得るものなし  
火災から、ブロック会員大会まで、ご支援・ご協力いただいた全ての方々心より深く感謝いたします。一生忘れることの出来ない、気づきと学びと感謝と喜びをいただきました。この感謝の気持ちを、言葉で表すことは不可能です……。心より御礼申し上げます。



第36回福岡ブロック会員大会主管LOM実行委員長 江藤 晃 輔

社団法人飯塚青年会議所

会員募集

(社)飯塚青年会議所は、あなたの力を求めています！

青年会議所(JC)は“明るく豊かな社会”の実現を理想とし、時代の担い手たる責任感を持った20歳から40歳までの、指導者たらんとする青年の団体です。私たちは現在、国内750余りの都市に6万人余りの会員を、全世界114カ国地域に22万人余りの会員を擁しています。青年会議所の事業目的は“社会と人間の開発”です。私たちは市民社会の一員として、市民の共感を求めて社会開発計画に基づいた活動を行い、「自由」を基調とした民主的な指導能力の開発を推し進めています。

●対象者● 飯塚市、嘉麻市、桂川町に住所または勤務先を有する20才から37才までの健全な方であれば男女を問いません。詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

青年会議所は20歳から40歳までの情熱ある青年の団体です。

広報懇話委員会 ■ 委員長/佐々木 英 ■ 副委員長/有馬 武文 ■ 委員/ 有田 栄公・小山 寛・小玉 哲嗣・長岡 敦史  
中川 民志・西野 幸彦・宗高 元彦

(社)飯塚青年会議所 〒820-0017 福岡県飯塚市菰田西3丁目18-11 TEL 0948-23-0292 FAX 0948-24-3471  
E-mail info@iizuka-jc.com URL http://www.iizuka-jc.com/

VOICE



JCI

INDEX

麻生太郎先輩・赤間秀樹理事長対談

平成20年4月27日(日) 飯塚市柏の森 麻生邸にて

2008 July

IIZUKA Junior Chamber NEWS vol.53

社団法人 飯塚青年会議所

(社)飯塚青年会議所 ■ URL http://www.iizuka-jc.com/

自由民主党 前幹事長 衆議院議員

(社)飯塚青年会議所 第55代理事長

# 麻生太郎先輩 赤間秀樹

あ そう た ろ う      あ か      ま      ひ で      き

## 対談



**赤間理事長 (以下赤間)** ○イントロダクション  
本日は大変お忙しい中、このような場を設けていただき、ありがとうございます。  
早速ですが、麻生先輩は本日、先日の火災で被災した飯塚市本町商店街をご視察されたと伺っております。

**麻生太郎先輩 (以下麻生)** ええ、行って来ました。思っていたよりも被害が大きく、びっくりしました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を願っています。

**赤間** まずはこの筑豊地区の今後のまちづくりに関するお話をうかがわせていただきたいと思います。

**麻生** ○企業誘致の話  
まず、企業誘致の話ですが、飯塚市の齊藤市長が名古屋に企業誘致のための事務所を開きましたね。あれは英断だと思います。  
県や政令指定都市がやっていることは聞いたことがありますが、飯塚市のような規模の市であのような試みをされたのは飯塚市だけだと思います。雇用拡大は大きな課題ですがね。

**麻生** ○新しい商店街について  
次に、今後筑豊地区でどのようなまちづくりをしていったらよいかということに関してですが、まず、商店街をどう復興させるかという問題があります。  
今までと同じような商店街をつかったからといって人が増えるという保証はないでしょう。  
だったら、人がそこに集まってくるように、人通りがあるように、もっと言えば、夜でも人通りがあるようなまちづくりというのが肝心だと思います。  
また、高齢者が増えるのであれば、高齢者を中心に据えた商店街を考えてみてはどうでしょう。これからはもっと高齢化が進む中、高齢者と商店街がしっかりと結びついた、温かいまちを模索していったらと思いますね。

**赤間** 以前はそのようなコミュニティー広場や交流があったのでしようけれども、今ではそのようなつながりは難しくなってきたようですね。

**麻生** そうですね。いずれにしてもこれからの時代は、高齢者にターゲットを絞るような商品の品揃え、店舗設備の改装、商品開発やサービス提供をしてゆくべきだと思います。東京の巣鴨や、京王デパート新宿店は是非視察に行かれてはどうでしょうか。  
私が考える高齢者の方々の特徴は次の四つです。自分の時間がある・元氣・お金を持っている・さみしい。東京では入れ歯でもかむことができるステーキを販売しているところがありますが、高価な割にはすごく売れていると聞きます。また、高齢者はリピーターになりやすいということも事実だと思います。

**赤間** 私たち(社)飯塚青年会議所は火災があった次の日からすぐに、本町商店街において募金活動を行いました。その時に感じたことですが、こちらの人たちは本当に情が深いなと思いました。こんな町はほかにはない、すばらしいまちだと思います。私たちもらい泣きするぐらい、涙を流しながら募金をしてくださる方々がいらっしやいました。

今、麻生先輩のお話をうかがってまさにその通りであると思いました。  
今からお年寄りに親切的な商店街というのは今の飯塚の人たちのこの人柄を考えると、マッチするのではないかと思います。住み心地のよいスローな店舗のある商店街があるというのは、今からの社会、大切なのではないのでしょうか。

**赤間** ○青年会議所の活動について  
今回私たちは次の日から募金活動して、義援金募集のための口座開設をしました。それに対して市民の方々から非常に高い評価をしていただいています。  
もとをたどると(社)飯塚青年会議所は1953(昭和28)年7月1日創設をしましたが、その次の日、飯塚地区に大水害があったそうです。さらに(社)飯塚青年会議所創立50周年が行われた直後の2003(平成15)年7月19日にも、またもや大水害が起こりました。  
私たちは確かに「青年経済人」としてのまちづくりをしてゆくことは大切なのですが、やはり愛する私たちの地域のためにすぐに行動するということは大事であると思いました。

**麻生** 私はそのように率先して行動する青年の団体は非常に重要なものであると思います。また、今の若者達は潜在力はあるのですが、その力の方向性・流れを導き出してくれる団体も少ないと

思います。

**赤間** ○これから青年会議所活動に期待すること  
麻生先輩にお尋ねします。これからの青年会議所に対して期待されることをお教えてください。

**麻生** もっとメンバーを増やすことだと思います。  
先日、日本青年会議所の小田会頭のお父さんにお会いしました。  
お子さんが会頭になってどうですかとお聞きしたところ、家においても存在感が違うということを言われていました。青年会議所は人を育てる組織です。父親が子どもに教えることができることというのは限られています。青年会議所に入会し、様々なポジションを経験することによってその人は必ず人間の成長して行きます。  
よって、絶対に会員の拡大はやるべきだと思います。青年会議所はリーダーを育てるところであり、エリートを育てるところではありません。  
大切なのはアイデアを実行できるかどうかだと思います。これからの若い人たちは可能性に満ちています。青年会議所は若者が様々なアイデアを持ち寄り、それを実行に移す場だと思います。ですから、是非そのような志を同じくする者を沢山集めるために会員拡大に取り組むべきだと思います。

**赤間** ○プレゼントについて  
福岡ブロック協議会ではOTONANOSENAKA運動ということ全国に呼びかけています。  
この運動は現在の日本において、それまでの日本人が当たり前に行っていたこと、たとえば食べ物を残さないとかゴミを極力出さないようにし、CO2の排出を極力減らし地球温暖化をくい止めるとか、基本的なモラルを再度確認し自分たちが実践することによって子どもたちに伝えてゆこうという運動です。

その運動の一つとして、マイ箸運動というものがあります。これはできるだけ自分のお箸を持ち歩き使うことによって割り箸を使わないようにし、それによって資源を大切にし、「MOTTAINAI」という心を忘れないようにしようという運動です。  
本日お持ちしたマイ箸を麻生先輩に是非プレゼントさせていただきたいと思っています。



**麻生** どうもありがとうございます。手洗いにいったら洗面所をきれいに拭く。そのようなことは私は祖母にしつけられたからやるのですが、私は当然のことだと思います。プロゴルファーの石川遼君はそのようなしつけができていたということを知りますね。

**赤間** 私たちが実践し、その姿を子どもたちに見せて伝えていかなければいけませんね。先輩の今日のお話を十分に咀嚼して、今後の青年会議所の活動につなげていきたいと思っています。  
今日はお忙しいところ、長時間にわたり本当にありがとうございました。

